

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～人間の心は（ ）のようなものである。だから・・・

そして・・・運命をひらくものとは・・・」～

（ ）には何が思い浮かびましたか？「運命をひらくものとは？」とは、何が思い浮かびましたか？

運命をひらくものは何かを知るためには、運命はどこから来るのかを知っておくことが大事である。

「運命は『人』が連れてくる。」という人がある。確かにその面はある。しかし、人が運命を連れてきても、こちらにそれを受け止める力量がなければ、運は逃げていく。根本はあくまでその人の心の在り方なのである。「運命は人の心が創る」ということである。

人間の心は自然と似ている。放っておくと雑草が生い茂る。 稲森和夫氏が講演でよく引用されていたジェームズ・アレンの言葉がある。

「人間の心は庭のようなものである。（中略）もしあなたが自分の庭に美しい草花の種を蒔かなかつたら、そこにはやがて雑草のみが生い茂ることになります。

もしすばらしい人生を生きたいのなら、自分の心の庭の掘り起こし、そこから不純な誤った思いを一掃し、そのあとに清らかな正しい思いを植え付け、それを育みつづけなくてはなりません。」

心に不平不満が起こった時、気まま、わがまま、ムラツ氣が生じたとき、心に雑草が生えかけている兆候かもしれない。

では、心の雑草を取り除くにはどうすればよいか。それを示すのが聖賢の教えである。いい人・いい教え・いい言葉に触れることが必須である。

常岡一郎氏は・・・「災難に出会ってやけになる人、人を恨んで暗い心になる人、何も手につかなくなる人がある。これは災難の上塗りを自分でしている人である。さあ、一つ災難がすんだ。運命の伸びる道を塞いでいた石が一つとれた。しっかり勉強しよう。反省の時間ができて良かった。こう思う人は節から芽を出して茂る人である。」と。 「致知」四月号 特集「運命をひらくもの」（致知出版社）より

これを読んで、高千穂神社宮司の後藤俊彦さんのお話が頭をよぎりました。

災害大国といわれるわが国では、大震災では富める人も貧しき人も区別なく被災し、**運命を共有**することから人々が相互に一体感を持ち、**共生の道**を歩み、「和」の大切さを学んだように思う。大震災のたびに、世界のメディアは略奪も暴動も起こさず冷静にして秩序ある行動をとる日本人を称賛する。平成23年の東日本大震災の3か月後、私は慰問のため高千穂神楽を引率して福島・岩手の被災地を訪れた。

講演終了後、被災者の方々にこれからの問題について尋ねたところ、あるご婦人が・・・

「津波が何もかも奪っていったけれど・・・海が・・・残っているから・・・また頑張る。」と答えられた時は心底驚き、一瞬私は言葉を失った。非情な現象としての津波は憎んでも、海への憎しみはないように思われたからである。

このご婦人の言葉・・・あなたの心にはどう響きましたか？「共有」「共生」「和」がキーワードでは？ さあ！GWの後半がスタートします。自分の心の庭の掘り起こすための時間も用意してみませんか？

